

自分づくり・仲間づくり研究会



5年 花餅作り

I 研究の構想

1 はじめに

宮田小学校は、江南市の北西木曾川を背に位置し、校区には尾張きっての名利「曼陀羅寺」がある。

学校の歴史は長く、明治6年の分校開設以来、133年の年月が流れている。したがって、3代続けて本校に在学している家庭も少なくはなく、地域の方々の学校への親しみは大変深いものがある。

しかし、この伝統ある宮田地区にも、近年、マーメイトタウンなどの新興住宅地が広がりを見せ始め、保護者の価値観も一層多様化し、学校への要望も増加してきている。

本校の児童は、快活で知的好奇心が旺盛である。反面、自分本位で物事をとらえたり、友達と協力して目標に向かって努力をする態度が欠けていたりする面がある。

本年度、愛知県教育委員会の委嘱を受け、「自分づくり・仲間づくり」推進事業に参加することになった。この事業は、今、子どもたちに求められている「生きる力」の核となる、豊かな人間性や社会性をはぐくむことをねらいとしている。

本研究では、主題を「自他を大切にし、ともに高め合おうとする子の育成をめざして」とし、本校児童の育成目的に合致した、この事業での取組を紹介する。

2 研究の仮説

自他を大切にし、ともに高め合おうとする子を育てるためには、子どもたちが、共生の中で、自分の良さを伸ばし、温かな人間関係を築き上げていくことが大切である。本研究では、その育成のためには、「集団の中でのかかわり」、「連携と体験」が必要不可欠であると考え、次のような仮説を立てた。

- ① 集団の中で、自分のかかわりの必要性や価値を学ぶことで、自他を大切にし、互いに高め合おうとする子どもが育つであろう。
- ② 家庭・地域との連携を通して、自然体験、社会体験活動を進めれば、子どもは自分を見つめ、自分を大切にすることをはぐくんだり、他を思いやり、互いに高め合う態度が育ったりするであろう。



3 研究の手だて

仮説を検証するために、次に示す4つの手だてを講じた。

① 自他を見つめ直す、道徳・エンカウターの授業

自他を大切にし、ともに高め合おうとする心の育成をはかるためには、子どもたちに「自分はまわりの子にこんなことができた」、「自分も自分以外の人もみんな大切な人」などの思いを抱かせることが大切である。集団の中で自分のかかわりの必要性や価値を学ぶことを目標にした道徳の授業や、エンカウターを行うことで、求める子ども像に近づくと考えた。

② ペア活動による自分づくり・仲間づくり

本校では、児童会が主体となって、1・6年生、2・4年生、3・5年生が組になってペア活動をしている。この活動で、異学年の子どもが、同じ目的をもち、協力する機会を設けることで、同学年だけでなく、ペア学年の間の中からも、集団の中での自分を見つめさせたいと考えた。

③ 宮小支援ボランティアの方との体験活動

本校は、以前から宮小支援ボランティアの方々と共に、体験活動をすることに力を入れてきた。この自然体験や社会体験などを、意図的に年間活動計画の中に組み入れ、この体験から自他を見つめる態度の育成をはかった。また、この関わりの中で、学校関係者だけでなく、地域の多くの人から、自分が大切にされていることを味わわせたいと考えた。

④ 家庭・地域への広報活動

家庭・地域の協力を得て、教育活動をしていくためには、保護者・地域の方々の思いや願いを学校は受け止め、それを生かしたり、学校での教育活動を発信して、理解してもらう必要がある。そのためには、学校・家庭・地域の三者間での連携を密にしなくてはならない。

本校では、ホームページを開設したり、「自分づくり・仲間づくり新聞」を発行することで、保護者や地域の方々に学校での取組や、「心をはぐくむ推進委員会」で話し合われた内容を知らせる工夫をした。

II 研究の実際

1 心をはぐくむ推進委員会

地域・保護者・児童・教職員の代表からなる「心をはぐくむ推進委員会」を設置し、定期的に委員会を開催したことで、事業の内容がそれぞれの立場にとって、すべて有益であるように考えて、計画を進めることができた。

また、それぞれ思った以上の活動ができる場合が多く、話し合い



の必要性がよく理解され、事業の推進に大いに役立った。

「心をはぐくむ推進委員会」の活動

第1回 推進事業に関する内容説明・組織・方針・年間事業計画の検討

- (1学期) ・各学年の取組の紹介、生活指導の取組の紹介
 - ・児童代表の発表
(ペア交流、全校歌声集会、総合的な学習の時間、読書週間)
- ・推進委員の方の感想・助言

第2回 推進事業に関する経過報告・今後の活動予定

- (2学期) ・ホームページの開設、「自分づくり仲間づくりだより」の編集計画
心を育てる「道徳授業」の展開
 - ・児童代表の発表
(大根の栽培、藍の栽培とソーラン節、鳴子作りと藤乱舞、菊作り)
- ・推進委員の方の感想・助言・地域連携の提案

第3回 推進事業に関する経過報告、活動の成果とまとめ方の検討

- (3学期) ・かがやき集会・かがやき発表会の持ち方の検討
 - ・児童代表の発表
(稲刈り・脱穀・餅つき・花餅作り、昔の遊び、ケナフの紙すき)
- ・推進委員の方の感想・助言・今後の活動への要望

2 「道徳」や「エンカウンターを取り入れた学級活動」での取組

(1) 各学年の取組

【1年】

1年生では、友達と仲良く協力し、共に生活している喜びが実感できるような機会を多く持つようにした。道徳授業では「あかるいこえ」(礼儀)「はしのうえのおおかみ」(思いやり・親切)、「えんそく」(仲良し・助け合い)「つみきあそび」(仲良し・助け合い)などで話し合ったり考えたりして自分を振り返り、実践意欲を高めるとともに、日常生活の中で実践する場を意図的に設定して習慣化を図った。帰りの会での「よいことみつけ」や、給食当番への「お当番さんありがとう」の後の会食、掃除の反省会での「ごくろうさまでした」のあいさつ、「はいどうぞ」「ありがとう」「どういたしまして」などの言葉かけ等々が、恥ずかしがらず自然にできるように継続して指導している。

また、「ごめんなさい」がきちんといえるようにその場その場で支援してきた。このような活動を通して、友達への感謝とともに、自分が認めてもらえた喜びも味わうことができ、よい人間関係が育ちつつある。

【2年】

自分自身を振り返ったり、友達によさに気づいたりすることをねらいとして「キミのこんなところがステキだよ」というエンカウンターを行った。

まずはじめに、自分自身のいいところを考え記入させた。次にグループを作り、

用紙を順番に回していき、必ず友達のいいところを書いて次の人に回すようにさせた。そのときに他の人が書いたことと重なってもいいこと、ふざけて書かないことなどを確認し合った。

さらに、グループ以外の人にも、いいところを見つけたらカードに書いて渡すようにさせた。最後に、カードをもらったときの気持ちや、いいところ探しをしたときの感想を自由に書かせた。

はじめはどのくらい書けるか心配したが、教師が思った以上に友達のよいところをたくさん見つけ書くことができていた。子どもたちの感想にも『こんなにいいことが書いてあるとは思いませんでした』とか『自分のもらえるのがもっと少ないと思っていたけれど、意外と多かったのでもうれしかったです』と書かれていたが、自分の気づかない自分のよさを再認識するよい機会となった。

【3年】

集団生活をしていく上で最も大切なことは、互いに信じ合い、励まし合う仲間意識である。特に、学級というまとまりは、学校生活のもとになるだけに、明るくおだやかな雰囲気をつくることが大切となる。そのためには、相手を信頼し、長所を見つけて、互いに励まし合い、助け合って、成長していくものでありたい。

この学年の児童の様子を見ると、行動が活発になり、交友関係が広がり、少しずつ仲間意識が芽生え、集団遊びに夢中になることも多くなって

きている。こうした遊びの中で、互いに助け合い、相手のことを考えて行動することの大切さを、知らず知らずのうちに体験してきている。

しかし、まだ自己中心的な傾向が強く、自分の興味に従って行動してしまいがちで、相手の立場に立って考えるところまでは育っていない。そこで、この道徳の授業実践を通して、思いやりの気持ちを持って、まわりの子どもたちへの気配りができるようにし、仲間を増やし、友情の輪を広げ、互いに成長していくことの喜びを味わわせたいと考えた。

自分にとっても身近な遊びである、ドッジボールを扱った資料を取り上げたことで、主人公の気持ちを考えるに当たり、過去の経験からいろいろな意見が出た。まき子の立場が自分に似通っている児童は、何とかうまくなりたいとする思いが理解でき、あや子やよしおの立場に近い児童からは、うまくできなくて悩んでいる児童の気持ちを理解し、自分が支援できることは何かを考えるよ

い機会になったと思う。とかく「なーんだ，へたくそ。」「しっかりしろよ。」と、口走ってしまいがちな日ごろの関係を振り返り，お互いに優しい言葉をかけることの大切さ，励ましてもらった時のうれしい気持ちを味わう喜びを，何人かの児童が分かってくれたように思う。さらに，今回活用した「心のノート」P. 42の資料は，日々多くの友達との望ましい関係を築き，自分をつくり，仲間をつくっていった欲しい子どもたちにとって，有意義な資料であった。

【4年】

4年生になると，自分自身のことだけではなく，自分のまわりの様子や友達の気持ちも少しずつ考えられるようになる。また，通学班や生活班が違っても，性格や興味が似ているという理由で友達関係を構築しはじめる時期である。

そこで，よりよい人間関係をつくるために，帰りの会で，「今日のMVP」というコーナーを設けて，友達の学校生活に目を向けさせるようにしている。そこでは，友達のよい行動を発表し合って，友だちの良さや優しさなどを賞賛する機会

としている。

本時の授業では，まず，「友達っていいなあ。」と感じた経験を発表した。次に資料「絵はがきと切手」を読んで，料金不足のはがきを送ってきた友達に，本当のことを伝えるか，どうかについて話し合った。「他にもまちがえて料金不足の手紙を送るかもしれない。」「できるだけ早く教えてあげたほうが親切。」「お互いに注意できるのが本当の友達だ。」などの発言が多く，本当のことを伝えてあげようとする児童が大勢を占めた。一方で，「自分がいわれたらいやだ。友達が傷つくかもしれない。」という友人関係にすごく慎重になっている女子児童も数名いた。意見を本音で話し合う児童の姿が見られ，交友関係を考えるいい機会になった。これからも道徳的な価値観，道徳的実践力とともに，素直に発表し合える学級作りを大切にしていきたい。

【5年】

5年生になると，委員会活動が始まったり，通学班の班長を任されたりする。この時期は，交友関係が広くなり，活動の場も大きくなる。しかし，互いに関わり合いながら生活する上では摩擦も生まれ，自分の思い通りにならないことも多く生

まれてくる。

第5学年 学級活動指導案

- 1 題材 いいとこさがし
- 2 本時の目標
 - 友達の良さを見つけてほめることができる。
 - 友達が見つけた自分の良さを知り、周りに受け入れられることの喜びを味わう。
- 3 準備
 - (教師) いいとこカード・シール
 - (児童) 筆記用具
- 4 学習過程

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 留 意 点
つ	(ウォーミングアップ) 1 グループ作りをする。 (一斉) ・「離れるパツ」のかけ声で2人組を作る。(5回)	★ 近くの子と2人組を作ったら背中合わせになり、「離れるパツ」とかけ声をかけたら、離れて違う子とまた背中合わせになるゲームをする。5回のうち1～2回は男女や親しくない子同士のペアを進んで作るようアドバイスし、できたペアを褒める。いろいろな子と2人組作りをすることによって人間関係を広げるようにさせたい。 ○ 背中合わせの子と手をつなぎ、次に他の
か	・4人組を作り輪になって座る。	2人組と合体して4人組を作るようにする。男女混合のグループになるように助言する。グループができたならリーダーを

一方、人との関わりは、自分の良さを認められることで自信につながり、勇気や耐性を向上させていくことができる。それは、助け合い、かばい合うという行動として表れ、友達の良さを知ることによって仲間意識を高めていくことができる。

5年生では、自分や友達の気持ちに敏感になることや、素直な言葉や表情で自分の気持ちを表現できるようになってほしいと願い、以下のようなエンカウンターを取り入れた学級活動を、授業参観日に行った。

友達のよいところを書き込んでいくことや、それを読んでさらに付け加えることは、その友達のことを深く理解しようとい

う態度になったと思われる。また、自然教室の後に行ったので、「ダンスの振り付けを考えるのがよかった」とか「司会を上手にやっていた」など、いろいろな視点から書き込むことができ、自他を見つめるよい機会となった。

【6年】

道徳の授業で「合唱コンクール」を題材に授業を行った。主人公の真理子がコンクール出場のために、練習に励み、出場できることになるが、友達は出られなかった。その一人に「コンクールに出るつもりじゃないでしょうね。」と言われる。実際にもありがちな状況から、もめごとを避けて妥協するか、自分の意思を信じて通すか。自分が責任を果たすことの大切さを考えさせたい単元である。

自分に照らし合わせて考えさせ、来年中学に進学し、部活動でこのようなことが起こったら・・・という状況を想定させた。自分のがんばりをあきらめず、また、練習に協力してくれた家族のためにも「コンクールに出る」方を選択した子が圧倒的に多かった。

逆に、友達の立場になって、「コンクールに出るつもりじゃないでしょうね。」と言うかどうかでは、言わない子が多かったが、中には、友達によっては言うてしまうかもしれないとつぶやいた子がいた。すると、私も・・・と賛同する子が出た。ただ、本当の友達ならきっとわかってくれると思うという感想を書いた子が何人かいた。これから中学へと進み、友達のよさに気づき、本当の友達を作るときが来る。そのときに、お互いを思いやる心を持てる者同士が本当の友達を作ることができることを知るだろう。この単元をこれからの生活に生かしていけることを願いたい。

(2) 考察（成果と課題）

どの学年も「自分づくり・仲間づくり」の中核に道徳の授業やエンカウンターを位置づけ、ここに挙げた実践例以外にも1年を通して計画的に実践を積み上げてきた。その結果、これまで以上に、子どもたちが互いに心を開き、助け合い、協力し合って活動する姿が見られるようになってきている。

育ちつつあるそうした態度をさらに定着させていくためにも、今後、道徳教育の年間指導計画を見直し、道徳の時間と総合的な学習の時間、行事、教科との関連をさらに強めていくことが必要だと考える。また、体験活動や道徳資料の活用、構成的エンカウンター（SGE）の手法を取り入れた指導方法などを工夫することで、さらに児童が心を開き、互いに助け合い、協力し合って集団生活ができるようにしていきたい。

3 宮田小支援ボランティアさんとの体験活動（自然体験・社会体験）

本校は、以前から多くの宮田小支援ボランティアの方々と共に、体験活動をすることに力を入れてきた。本年度も43人の支援ボランティアの方々の協力を得ることができ、自然体験や社会体験などの活動を、意図的に年間活動計画の中に組み入れ、これらの体験から、自他を見つめる態度の育成を図った。また、このかかわりの中で、学校関係者だけでなく、地域の多くの人から、自分が大切にされていることを味わわせたいと考えた。

平成18年度 体験活動内容（ボランティア関係）

<1年> 「草花遊び」

「昔の遊び」など「遊び」を通して、自然や昔の人の様子に触れさせるとともに、なによりボランティアの方々との触れ合いの場を多く設定した。

<2年> 「町探検」による

社会体験と「野菜作り」による自然体験の二つの柱で、体験活動を行った。

<3年> 「宮田の昔」を

学年テーマとして「町探検」「江南音頭」「大根の栽培と加工」を経験させ、「宮田の昔体験」につながる活動を行った。

4月	藍のお話・畑の準備（4年）ケナフの栽培（4年）
5月	草花遊び（1年）野菜作りの話（2年）町探検（3年） トンボ教室（4年）サツマイモの植え付け（全学年）
6月	町探検・野菜作り（2年）ウォーターランド観察会（4年） ヤゴ救出（4年）田植え（5年）曼陀羅寺のお話（6年）
7月	野菜の取り入れ（2年）江南音頭練習会（3年） 藍染め教室（4年）菊作りの話（6年）
9月	大根の種まき（3年）江南音頭練習会（3年）菊作り（6年）
10月	町探検（2年）江南音頭発表会（3年）稲刈り（5年） ウォーターランド観察会（4年）菊作り（6年） サツマイモの収穫（全学年）
11月	昔の遊び（1年）大根の収穫（3年）脱穀（5年） 菊作り（6年）戦争体験のお話（6年）
12月	おでん・漬け物（3年）ウォーターランド観察会（4年） 餅つき・花餅作り（5年）曼陀羅寺の清掃（6年） 菊作り（6年）
1月	昔の遊び（1年）宮田の昔体験（3年）縄ない（5年） ケナフの紙すき（4年）
2月	かがやき集会（全学年）

<4年> 「環境学習」を中心に、体験活動をとらえなおし、「藍の栽培と染め付け」「ケナフの栽培と紙すき」の栽培活動と、「ヤゴ救出」「ウォーターランド観察会」の自然

体験活動の両面から環境を考えさせる取組を進めた。

<5年> 「日本の食文化」を学年テーマとして、「米作り」の様々な活動を通して、自然のすばらしさや、農家の人々の知恵や工夫、米の加工や料理など、米にまつわる様々な文化を学ばせた。

<6年> 「未来に向かって」を学年テーマとし、「福祉」「自然環境」「国債理解」「歴史」の4分野の中で各自が自分のテーマを設定して研究を進めた。「曼陀羅時のお話」「戦争体験のお話」は学年全員が聞き、「曼陀羅時の清掃」にも全員が参加した。また、「菊作り」にも全員で取り組み、ボランティアの方の熱心な指導のおかげで、一人一人、形も色も違う、自分だけの菊を咲かせることができた。

(1) 各学年の取組

【1年】 「昔の遊び」

ボランティアの方々に支援していただき、草花遊び（5月）と昔の遊び（1月）を行った。草花遊びでは、マキの葉の手裏剣、ササの葉舟、シロツメ草のかんむりや首飾り、オオバコのすもう、ススキのてっぽうなど、たくさんの遊びを教えていただき、楽しむことができた。



昔の遊びでは、こままわし、竹馬、けん玉、メンコ、ぼうずめくり、あやとり、お手玉、はねつき、紙飛行機など、昔からの伝統的な遊びに挑戦した。熱心に取組、うまくできるようになって喜ぶ姿や、友達・ボランティアの方々と楽しく遊ぶ姿が見られ、世代を超えてふれあうよい機会となった。今回の2回の活動を通して、人とふれあう喜びや感謝の気持ちを持つことができ、地域の人たちと仲良く暮らしていこうとする心が育ってきた。

【2年】 「町探検」

2年生では、6月と10月の2回、生活科の町探検を、宮小支援ボランティアの方に協力していただき行った。

1回目の6月は、子どもたちにとって初めての町探検なので、各グループに1名ずつボランティアの方についていただいた。ボランティアの方は、ほとんどが古くから宮小学区に住んでみえる方なので、地域のことをよく知っていて、いろいろと教えていただくことができた。



また、ボランティアの方が作っている畑も探検場所の1つに入れ、そこで待機していただいて、子どもたちに実際の野菜を見せながらお話をしていただいた。

10月（2回目）の町探検では、できるだけ子どもたちの力で探検をさせたいと考え、ボランティアの方についていただくのは2グループに1名とし、特に安全面での

配慮をお願いした。おかげで、事故やけがもなく、楽しく探検を終えることができた。また、この経験を生かし、この後行われた社会見学でのグループ行動も協力してしっかり行えた。探検後、グループごとに探検した場所についての発表を行い交流し合ったが、どのグループも探検して学習したことを、協力して分かりやすく発表することができた。

【3年】 「宮田の昔」

本校の民具室には、昔の米作りの道具や蚕の道具、生活用品などが保管されている。その道具を使って、宮田小支援ボランティアのおじいさん、おばあさんに自分の生活体験をまじえて昔の暮らしについて話してもらうのが、毎年恒例になっている「宮田の昔」の学習である。今年も支援ボランティアの方が準備してくださったスライドを見ながら宮田の昔について話を聞いた後、実際に昔の道具を使って、洗濯やいも洗い、水運び、七輪の火起こし、鯛の丸干し焼きなどを体験した。当日は、子どもたち全員が日本手ぬぐいと紐を持参し、姉さんかぶりにたすきがけの仕方を習い、その格好で活動を行った。水仕事はつらく重労働ではあるが、初めての体験であり、とても楽しそうであった。煙にまかれてなかなか炭に火がつかなかったが、なんとか七輪で鯛の丸干しを焼くことができた。炭火で焼いた魚は格別おいしく、普段は魚嫌いの子も食べることができ、どの子も満面の笑顔で「大変だったけどすごくおいしかった。」と話していた。現在はどの作業も機械化されて便利になっている。今回の体験を通して、昔の暮らしの大変さを体で感じるとともに、こうした手作業労働から、昔の人の知恵を探ってみた。



どの作業も節水、省エネにも結びつき、時間はかかっても環境には優しい暮らし方であることにも気づくことができた。

【4年】 「藍染め体験」

藍染めは、ボランティアの加納さんから種を見せてもらって育て方を教わった後、ポットに種をまくことから始まった。天候不順のためか生育状況が心配されたが、草取りや肥料を与え辛抱強く成長を見守った。Tシャツに藍染めを行うにあたり、事前にいろいろな染め方を学習し、できあがりを想像しながら割り箸や輪ゴムで布を縛った。実行委員が加納さんから藍染めの方法の指導を受けたのち、クラスへ帰って、支援ボランティアさんと一緒に藍の葉をとって作った藍染め液にTシャツを浸した。



運動会では、できあがったTシャツを着て5年生から教わった「宮田っ子ソーラン」を元気に踊った。

染める前は、上手にできるか不安でしたが、作っているうちに楽しくなって不安も吹っ飛びました。

今回の藍染めでびっくりしたことは、緑色の葉から青色に染まったことです。はじめはどうしてだろうと思ったけれど何となく理解できました。 <児童の感想>

【5年】 「米作り」



5年生では食文化の追求として、米づくりを行ってきた。米づくりに関するいろいろな体験活動においてボランティアの方々にご指導、ご協力をいただいた。米づくりのための田んぼは「いこまい田」として、校区の田んぼを借りることができた。

6月の田植えでは、普段なかなか入る機会のない田んぼの感触にとまどいなが

ら、苗の植え方を教わり、楽しく活動することができた。

それから4ヶ月後の10月に稲刈りを行った。大きく育った稲に驚くと同時に、自分たちが知らない間に、稲の世話をしていただいたボランティアの方に感謝し、取り組んだ。慣れない鎌の使い方を教わりながら、意欲的に取り組む児童の姿が印象的だった。20名近いボランティアの方の協力を得て、怪我もなく貴重な体験をすることができた。

11月の脱穀では、3、4種類の機械を使い、穂をとり白米になるのを見て、興味深い体験と見学ができた。

1ヶ月後の12月には「もちつき・花もち作り」を行った。この活動でもたくさんのボランティアの方々に、打ち合わせの段階から参加していただくことができた。もちつきの仕方や花もちの作り方や由来など、たくさんの方々に教えていただいた。

1月には脱穀で残ったわらを使い、縄ないを行った。この縄ないがなかなか難しく、ボランティアの方にやり方を聞いてもできない児童も多かった。「さすがボランテ



ィアさん」と言う声も聞かれ、改めて昔の道具の苦労を実感することができた。

一年間の米づくり体験活動で、ボランティアの方々と出会い、触れ合う中で、児童は米づくりの苦労や工夫などを学習した。その過程では、仲間と協力し、ボランティアの方々に教えてもらいながら目を輝かせて取り組む姿が多く見られた。多くのボランティアの方々、仲間と関わることにより、自分を成長させることができた。

【6年】 「菊作り・戦争体験お話会」

7月から11月にかけて、宮小支援ボランティアの方々の協力のもと、菊作りを行った。苗から1人1鉢、毎日水やりを行ったり、分け芽を取り除いたり、輪台をつけたり、愛情を持って育てる中で、どの子も思いやりの心を育てることができた。また、ボランティアの方々に教えていただくことで、普段とは違った心の交流も行うことができた。出来上がった菊は「江南菊祭り」に出展し、地域の方々にも喜んでもらえた。



学習発表会で、「ガラスのうさぎ」を演じることになった6年生は、戦争を体験したボランティアの方々からお話を聞くことができた。初めて聞く戦争体験の話に、どの子も真剣な眼差しだった。その後の感想でも分かるように、戦争の悲惨さ、悲しさを通して、人の痛みや悲しみを感じることもできた。

とちゅうでなみだがあふれそうになりました。かなしい気持ちをこらえて話してくれて、ありがとうございました。

6年生は今度の学習発表会で、悲しい戦争の物語「ガラスのうさぎ」を歌と劇で表現します。今回お話をして頂いた3人の方の思いを胸に、戦争の恐ろしさや悲しさを伝えたいと思います。

<児童の感想>

(2) 考察（成果と課題）

宮田小学校は、43名という多くの支援ボランティアの方々に支えられている。本年度も自然体験や社会体験の活動を進める中で、次のようなこと成果があがった。

① おじいさんやおばあさんとふれ合うというだけで、招待状やプレゼント、お礼の手紙を進んで用意するなど、子どもたちは積極的に働きかけをしようとした。

身近にいる人たちのお話を聞いたり、地域に生活している人たちの働く姿にふれたりすることで、多くの子どもたちは驚き、感動を受ける。それが感想や、家庭での会話にも表れている。

② 「田植え」「稲刈り」などの作業は、考えるよりはるかに大変なことである。そのことが、体験活動をやってみたらわかった。お年寄りのボランティアの方々の

力強さに感心し、お世話になっていることに対する感謝の心がより大きくなった。

③ 数々の実践から、学校・家庭・地域と連携し、体験活動をすることの有用性や、人とのかかわり合いの中から自他を見つめることの大切さを実感することができた。

④ この関わりの中で、学校関係者だけでなく、地域の多くの人とのふれあいを通して地域の人からも、自分が大切にされていることを味わわせることができた。

このような活動を6年間を通じて、継続的に行っていけば、めざす子どもたちを育成できることを確信することができた。今後も支援ボランティアさんとの良い関係を保ち、さらにこの活動を深めていきたい。

4 児童会の取組

(1) ペア活動

本校では1年と6年、2年と4年、3年と5年がペア学年として様々な活動に取り組んでいる。具体的には、ペアで遊ぼうキャンペーンやペア遊びなど代表委員会が企画しているものから、いも掘り、収穫祭、保健ビンゴといった各委員会が企画しているものなどで、1年を通して様々な形で交流を深めている。



その中でも、6月と1月の年2回行うペア遊びは、どの児童も大変楽しみにしている行事の一つである。内容は、色々な遊びを通して他学年との交流を深めることを目的としたもので、おんぶおにごっこや手つなぎ大縄など、できるだけペアの子と触れ合う機会が多い遊びを、高学年の子を中心にペア学級毎に考えて行った。

(2) 集会活動

児童会ではペア活動の他に、1年生を迎える会、6年生を送る会、歌声集会など、全校で取り組む集会や藤まつり激励会、陸上運動記録会選手激励会など、クラブや学年を主体に取り組む集会といった、集会活動を年間で数多く企画している。



毎週月曜の朝会時や、朝の会に、テープを使ってクラス毎に今月の歌を元気いっぱいに歌っていることから分かるように、

本校の児童は歌うことが大好きである。それを受けて、7月、12月の年2回行う歌声集会は、低学年と高学年に別れてそれぞれの曲を互いに歌い合い、最後に全校で合唱することによって、歌声を学校中に響かせよう、ということを目指して行った。

(3) かがやき集会

2月13日(火)に、1年間、「自分づくり・仲間づくり」の活動を支えていただいたボランティアの方々との自然体験や社会体験活動を振り返る、かがやき集会を行った。この集会では、自分たちの取組を振り返るだけでなく、他学年の発表を見たり、聞いたりする中で、次年度への向けての見通しを一人一人が持つことも目的としてい

る。また、いろいろな体験活動に協力し、育ててくださった地域のボランティアの方々に、心から感謝の気持ちを伝えることも目的とした。

発表だけでなく、招待状作りや記念品作り、会場作りなどの仕事を、学年毎に割り振り、一人一人が行うことで、お世話になったボランティアの方々に感謝の気持ちをより一層表すこともできた。

(4) 成果と課題

ペア活動、集会活動、かがやき集会、どれも活動方法は違うが、成果として共通していることは、触れ合いの中で、相手を思いやる気持ちが子どもたちに育ったことである。また、普段は感じられない喜びや達成感を、他学年や地域の方々との交流の中で味わうことができたのも大きな成果である。

一方課題としては、教師側が場面や機会を作り過ぎたことである。もっと子ども達から、積極的な考えや意見を引き出させる支援・指導を、児童会活動の中で取り入れていきたい。

5 広報活動

(1) 自分づくり・仲間づくりだよりの発行

「自分づくり・仲間づくりだよりの」は、毎月1度の発行であったが、各学年の行事や体験活動、授業の様子などを紹介し、学校の活動が、家庭・地域に、よく伝わるようになり、保護者に好評であった。行事等に来校された来賓にも、普段はなかなか見ることのできない子どもたちの活動の様子がよく分かると、大変好評であった。

(資料参照)

(2) ホームページの開設と地域への発信

本校では、今年度の9月からブログ形式のホームページを開設し、行事や体験活動、授業の様子などを地域へ発信している。ホームページを開設するに当たっては、夏休み中に現職教育を開き、作成方法や情報モラル、個人情報保護についての研修会を行い、職員間で共通理解を図った。

The screenshot shows the homepage of Hangan City Rikudo Elementary School. The main content is a news article titled "二度とおこしてはいけない戦争(6年)" (A war that should not happen again (6th grade)). The article reports on a talk given by three war veterans to the school's volunteer group on November 8th. The text includes a quote from a parent: "11月8日(水)の2限に、3人の戦争体験者の方々(宮小ボランティア)に来て頂いて、お話を聞きました。初めて聞く戦争の話に、どの子も真剣な眼差しでした。" (On Nov 8th, we listened to three war veterans. The children were very attentive to the war stories they had never heard before.) The article also mentions that the school will perform a song and play about the war during the next learning festival.

保護者や地域の方々からは、「学校で取り組んでいる活動の内容がよく理解できた」「子供の様子がよく分かるので、見るのがとても楽しみ」という声が多く聞かれた。開かれた学校として情報発信していることが、家庭や地域との連携を深めていると感じられる。

(3) 校内掲示

各教室の背面掲示板にはった「自分づくり・仲間づくりだよりの」は、子どもたちが自分たちの活動の様子を確かめるとともに、他学年の活動も見ることができた。将来

の活動に対する希望が膨らんだり、過去の経験と比較したりするような会話が聞かれ、活動への関心が高められたようである。また、各脱履に設置してある学年・児童会コーナーを、学校を訪れた保護者が熱心に見入る場面が多く見られ、「自分づくり・仲間づくり」の各学年や児童会の取組の豊富さを、保護者に効果的に伝えられたと考えられる。



(4) 成果と課題

今年度、学校での学習や生活の様子を、いろいろなメディアのそれぞれの良さを生かしてを使って多面的に地域に発信するためのシステムが構築されたことは意義深い。

「自分づくり・仲間づくりだより」「ホームページ」「校内掲示」の3つが、効果的に提示されるように、今年度の反省を生かした年間計画をしっかりと立てて、さらなる内容の充実に努めていきたい。

Ⅲ 次年度へ向けて

1 今後の事業計画

- ・ 「心をはぐくむ推進委員会」の内容を工夫し、学校の具体的な教育活動について家庭や地域から一層の支援・協力を得られるようにする。また、家庭や地域の人々の思いや願い、教師や児童の思いや願いを交流し、さらに連携を強める場としていきたい。
- ・ 「自分づくり・仲間づくり推進事業」での取組を生かし、道徳教育の年間指導計画を見直したい。また、道徳の時間と総合的な学習の時間、行事、教科との関連をさらに強めていく。体験活動や道徳資料の活用、構成的エンカウンター（S G E）の手法を取り入れた指導方法などをさらに工夫し、児童が心を開き、互いに助け合い、協力し合って集団生活ができるようにしていきたい。
- ・ 生活科や総合的な学習の時間、教科の学習において、宮田小支援ボランティアや保護者の協力を得ることにより、児童は貴重な自然体験や社会体験をすることができた。地域の人々の話を聞いたり、体験したりする中で、自分の生活を振り返り、家族や地域の人々に感謝の気持ちをもつことができた。さらに地域の人々の知恵を学ぶ活動を充実させていきたい。

- ペア活動、児童集会などの交流活動は、仲間づくりに効果的である。自他を大切にする心や互いに高め合う態度を培うとともに、今後も仲間づくりを進め、児童会活動を充実させていく。
- 「自分づくり・仲間づくりだより」や学校だより、ホームページなどの内容を工夫し、学校の取組を積極的に家庭・地域に発信し、連携をさらに深めていけるようにする。
- 宮田小支援ボランティアの組織の拡充を図るために、新たなメンバーを募集し、ボランティア活動内容の継承を図る。地域の人々とかかわる体験活動を通して、人としてのよりよい生き方を学び、感謝の気持ちを伝える交流の場や機会を増やしていきたい。